



うさぎ新聞



2014(平成26)年7月発行

院長よりひとこと

盛夏の候、いかがお過ごしでしょうか。

2014年4月発行のうさぎ新聞春号では当クリニック小児科の若杉なおみ医師と森本繁夫医師をご紹介させていただきました。看護師からは予防接種についてのお願いを、事務局からは当クリニックで行っているワクチンのご案内をさせていただきました。

今春はインフルエンザの流行がだらだらと続き、その後もウイルス性胃腸炎による嘔吐、脱水症で、点滴となってしまったお子様も多かったことと思います。5月下旬からは暖かくなり、幸い感染症は減ってまいりました。花粉症は例年以下の飛散となり、症状の比較的軽いお子さまが多かった印象です。

昨年夏はお子さまの間で手足口病が流行しました。のどの痛みや発熱から、飲水量が不足します。ときに脱水症になることがありますのでご注意ください。暑さの本番はこれからです。熱中症に注意され、お子さまと楽しい夏休みをお過ごしいただけますよう体調管理にお気をつけください。

今回のうさぎ新聞ですが、「医師からひとこと」は小児科の朱医師です。朱医師は立川災害医療センター小児科を退職後、平成24年4月から当院に勤務しております。この間、多くのお子さまを診療させていただきました。アンケート調査からも「頼りになる」と保護者さまから多くの信頼を得ているところです。看護師からは「お子様が夏にかけてかかりやすい病気」についてです。事務局からは先日おこなったアンケート調査へのご回答です。お忙しいとは思いますが、ぜひご一読ください。今後とも「うさぎ新聞」と「当クリニック」をよろしくお願いいたします。

診療時間のご案内

* 一般外来 *

月～金曜日

9:00～12:00

(受付 8:45～12:00)

16:00～19:00

(受付 15:45～18:45)

土曜日

9:00～12:00

(受付 8:45～12:00)

14:00～17:00

(受付 14:00～16:45)

日曜日

9:00～12:00

(受付 8:45～12:00)

* 乳児健診専門外来 *

月・水曜日

15:00～16:00 (受付 14:30～)

* 予防接種専門外来 *

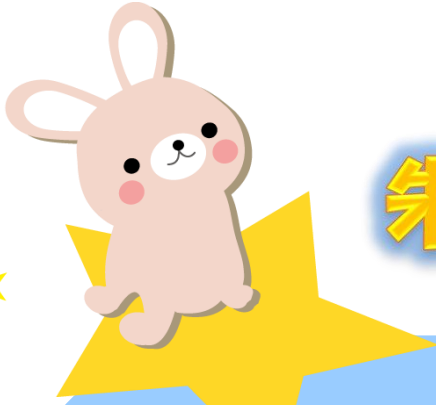
火、木、金曜日

15:00～16:00 (受付 14:30～)

土曜日

12:30～13:00 (受付 12:15～)

お困りの時にいつでも受診できます
よう平日は夜7時まで、土曜日は夕方
5時まで日曜日にも診療いたします。



朱医師より



なぜ春先や秋口など、季節の変わり目で気管支喘息患者が増えるのか？

★ アレルゲン

気管支喘息の増悪因子としては、まずアレルゲンがあげられます。喘息発作を引き起こすアレルゲンの代表的なものは室内塵であり、室内塵の本体は千リダニ科のヒョウヒダニです。ダニが排泄する糞や死骸の破片中に含まれる成分が人に対してアレルゲンとなり、ダニの繁殖が、季節の代わり目に喘息発作が多い主な理由と考えられていました。千リダニ科のダニは日本のような温暖湿潤な気候の地域に特に多く、気温25℃、相対湿度75%前後で繁殖し、相対湿度が50%以下になれば繁殖することができない、したがって日本の一般家庭では梅雨頃から秋口にかけて増殖します。しかし近年家屋が高度に気密化されエアコンなどが普及したため、ダニは1年中繁殖し、アレルゲン量は季節変動を示さなくなったといわれています。花粉は上気道のアレルギー症状のアレルゲンとしては重要な位置を占めていますが、花粉が吸入されても下気道まで到達しないので喘息発作の主な理由とはいえません。しかしフタクサ花粉は喘息発作に関連があること、イネ科（カモガヤ）の花粉は特定の気象条件で花粉喘息に関与していることが知られており、花粉の飛散時期に喘息発作が多い理由の一つとして考えられます。

★ 気象の影響は？

喘息発作が季節の変わり目に多いことのアレルゲン以外の理由としては、感染、空気汚染（大気、室内）、受動喫煙、薬物、気象、運動、心理的ストレスなどがあります。臨床的に喘息発作が梅雨時や台風の接近時、寒冷前線の通過時に多いことは経験され、よく知られています。喘息発作患者数と気象因子との関連を調査した報告はいくつかあります。夜間救急外来を喘息発作で受診した小児の患者と気象因子を検討し、気圧の低下、気温の低下、湿度の低下と関連があったという報告、患者の喘息日誌の記録をもとにした解析で、喘息増悪に影響を与える因子は、日中の気圧の差、前日との湿度の差であり、ピークフロー（喘息の状態を把握する指標）の変動率に影響を与える因子は、最低温度、気圧の変動であったという報告があります。しかし、冷氣による気道収縮やその増強の報告はあるものの、気象条件と気道の収縮についての明確なエビデンスはほとんどありません。喘息発作には多因子が影響すること、また心理的な影響も大であることなどから、単因子の検討はなかなか困難であるためかと思われます。





ナースからの

お母さんに伝えたいホームケア

今回はお子様が **夏にかけてかかりやすい病気** についてお話します。

咽頭結膜熱（プール熱）

39～40℃の高熱が4～5日続き、喉の痛みが強く、目も赤くなります。頭痛、吐き気、腹痛、下痢を伴うこともあります。

アデノウイルスが原因です。プールを介して学童のあいだに流行しますが、プールに入らなくてもうつります。熱や喉の痛みをおさえる処方をします。

手足口病

手の平や足の裏、口の中に小さな水ぶくれができる病気です。乳幼児のあいだで流行します。ときに高熱が出ることがあります。治療をしなくても自然に治る場合がほとんどですが、熱や口の中の痛みがあるときは、薬を処方します。

ヘルパンギーナ

乳幼児のあいだで流行する夏かぜの一種で38～40℃の熱が2～3日続きます。のどの奥に小さな水ぶくれができて痛いので食べられなくなります。ひどいときは水分も飲めなくなり、脱水症になることがあります。熱やのどの痛みをおさえる処方をします。

とびひ（伝染性膿痂疹）

すり傷や虫さされ、あせも、湿疹などに化膿菌が入り込んで水ぶくれができます。かきこわした手でほかの場所をかくと、そこにまた水ぶくれができます。抗菌薬の飲みぐすりとおめりぐすりを使用して治療します。

病気の症状でご心配な時はご受診されて下さい。

- ・ 熱が下がらない
- ・ 食事や水分がとれない
- ・ ぐったりしている

このような時は、すぐに小児科を受診しましょう。





事務局より

みなさまからのアンケートについてのお答え

Q. 以前、サイトには電話予約がダメな時間が記載されていなかったの、予防接種予約の電話をしたところ「今は忙しいのでwebで予約してください。」と断られた。忙しいのかもしれないが電話対応も含めて事務の仕事だと思うので対応の改善を望む

A. 失礼な対応をしてしまい大変申し訳ございませんでした。院内の混雑状況によりその場で受けできないこともあります。折り返しご連絡させていただくなどして対応させていただきます。

Q. 一つでもベビーベッドが1台でもあると便利

A. フレイルームに1台設置してありますのでぜひご利用ください

Q. 医療スタッフとして働いている自分から見て、治療内容も安心でき、薬もその人に合ったものを考えてくれるので知人にも勧めている。

A. ありがとうございます。今後もより安心して皆様にご利用いただけるよう医療職スタッフはもちろん事務局スタッフも努めさせていただきます。

アンケートのご協力ありがとうございました。
ホームページでもアンケート結果を御覧いただけます。
今後とも当院をよろしくお願いいたします。

当日の診療順番予約はアイチケット

<http://paa.jp/t213/0/>



予防接種、乳児健診、特定健診予約は

<http://www.0425182088.com/i/>



〒197-0802 あきる野市草花 1439-9

医療法人社団 みやびの会

こばやし内科小児科クリニック

TEL 042-518-2088

HP <http://kobayashi-naika-shounika-clinic.com>

(あきる野市 小児科 で検索して下さい。)

